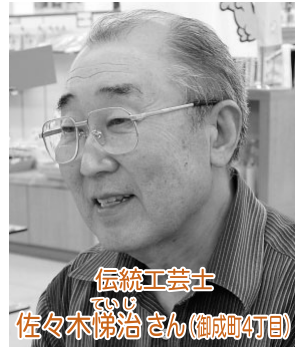




伝統工芸品 大館曲げわっぱ 師の技を受け継ぐ

さて、店内でハチ公の次に目に入ったのは、伝統工芸品大館曲げわっぱ。木目の美しさと曲面を生かしたデザインは、まさに芸術品ですね。その大館曲げわっぱを知るため、大館曲げわっぱ職人の師匠とそのお弟子さんに、インタビューしてみました。



伝統工芸士
佐々木 保治さん (御畑4丁目)

曲げわっぱを伝える

5年前から、大館曲げわっぱに慣れ親しんでもらおうと、市内の小学校で曲げわっぱ体験教室を開き、大館曲げわっぱ作りを教えています。

この体験教室で利用している曲げわっぱ作り体験キットが大変好評なため、観光物産プラザを訪れた観光客にも、曲げわっぱの製作を体験してもらおうという話が持ち上がりました。

そこで、観光物産プラザとおおまちハチ公通りに新しく完成した工房に、曲げわっぱ

の製作が出来る体験コーナーを用意することになりました。この体験コーナーを用意するため、弟子を2人採用し、工房で曲げわっぱ体験キットの製作と大館曲げわっぱの基礎の勉強に取り組んでもらっています。

今後は、2人に体験コーナーで活躍してもらい、大館曲げわっぱの先生として新たな感性を発揮してもらいたいですね。そして、観光客に「大館に来てよかったね」と言ってもらえる場所にしたいですね。



弟子
小池 麻紀さん (日景町区)

木を知ること

物作りが好きで、曲げわっぱ作りにかかわる仕事に就きたいと思っていました。

今まで木材の加工をしたことが無くて、木という素材を知ることが大変ですが、師匠のもとで学んでいるうちに面白く感じてきました。今は曲げわっぱ作り体験キットの

製作のため、磨き、曲げ、樺縫いなどの作業をします。これからは、基本を身に付けて、オリジナリティのある作品を作ってみたいですね。



弟子
齋藤 忠さん (比内丁)

伝統を受け継ぐ

以前の職場では、物作りの仕事に携わっていました。

実家が曲げわっぱの工房の近くにあったので、曲げわっぱというのが昔から身近にあり、伝統工芸品の曲げわっぱを作ってみたいと思ったこともあったんです。

全国には、スギやヒノキなどの薄い板を曲げて作った曲げ物と呼ばれる工芸品がいくつかあります。

その中で、大館だけが唯一伝統工芸品として認められています。

これからは、その伝統を受け継ぎ、新しい大館曲げわっぱを作っていきたいと思っています。

曲げわっぱを ちょっとだけ 紹介



- ① 曲げわっぱのお弁当箱が売れ筋です。木の温もりでお弁当が美味しく感じるかも。
- ② 曲げわっぱの枠を使った金魚鉢、涼し気ですね。
- ③ 入れ子式になっている曲げわっぱのお弁当箱です。
- ④ 曲げわっぱで作ったカップ。リング型のすべり止めが特徴的です。